

# 道 岩見沢2病院再編提起

松野哲市長は「今後、労災病院側との協議を行う機会は持っていく必要性がある」と発言。北海道中央労災病院の大塚義紀院長は「今後、労災病院の運営に問題が生じた場合、労災病院側と協議する機会を設ける」と述べた。

岩見沢市は市立総合病院の建て替えに向け本年度中の基本構想策定を目指している。災病院は独立行政法人労働者健康安全機構

## 江別市職員給与 2.5%削減を提案 市立病院経営再建に充当

**【着見沢】**道は10日、岩見沢市内で開いた南空知医療圏4市5町の医療関係者

期医療を担つてゐることから、「人口減少下での急性期機能の維持・強化を図る

ため」として、再編統合に向けた議論を促した。

と述べた。会議に出席した。担当者ら39人が出席した。

議論が必要だとして公表した公的病院には含まれていない。  
(石川実和)

労働組合に、主に係長職以上の正職員の月給与を一律2・5%、3年間削減する

と北海道中央労災病院岩見沢、199床)について「機能集約化など再編統合に向けた議論を進めてほしい」と提起した。道内21の2次医療圏で、道が具体的な病院名を示して再編統合の方向性を提起したのは初めて。

# 道南

# 柏檜山で病院連携 「地域医療法人」設立へ

令和2.2.20  
ている常勤医師の配置や長期リハビリ体制の確保など江差病院の体制を強化。入院機能を可能な限り江差病院に集約し、各病院・診療所の体制を見直す考え。各町の病院は在宅医療や介護と重複する地域包括ケア機

江別市立病院の経営再建を充てたい考え。特別職も市長30%、副市長20%、教育長と水道事業管理者は10%の削減を検討している。

6月定例市議会に条例改正案を提出し、7月実施を目指す。今月19日に提案を受けた労組幹部は「病院の深刻さは理解しており協議

会議で道は、南空知の公的医療機関で施設老朽化がら建て替えの検討が進んでいる現状を指摘。岩見沢市立総合・北海道中央労災病院がともに2次救急や重症患者への対応などの急性

【江差】道は2020年度、檜山管内江差町の道の町立病院・診療所が連携する「地域医療連携推進めた。厚生労働省によると、同様の法人の設立は道高齢化が進む一方で、各病院の病床利用率が低い。」な経営を改善し、持続可能な医療の提供を図る。

同法人は道と江差町、厚一も共同でできる。道は法人

立江差病院と檜山南部4町  
法人」を設立する方針を固  
内初。同管内は人口減少と  
病院が一体となって非効率  
(古田裕之)

能を強化する。奥尻町国保病院は離島の特殊性を考慮して救急医療を確保する。道によると、檜山南部5町の人口は現在、約2万1千人。40年には約1万1500人に減少する見通しだ

沢部町、乙部町、上ノ国町、奥尻町で構成。今後、民間病院や介護施設を含める可能性もある。法人化で病床の再編が容易になるほか、医師の研修や医薬品の購入化に向け、檜山南部の医療を確保するための行動方針を確保するための行動方針を2月中に策定する。

療研究教育センター  
称)」をそれぞれ新設  
講座から同センターへ  
や初期研修医を派遣し  
定した医師確保を図る  
一部診療科で不在と

(仮)  
医師 同 なつ  
、安 う。  
医師の病床利用率は46・8%。  
4町の病院も17年度で58・  
1・82・8%などとじまつて  
いる。